

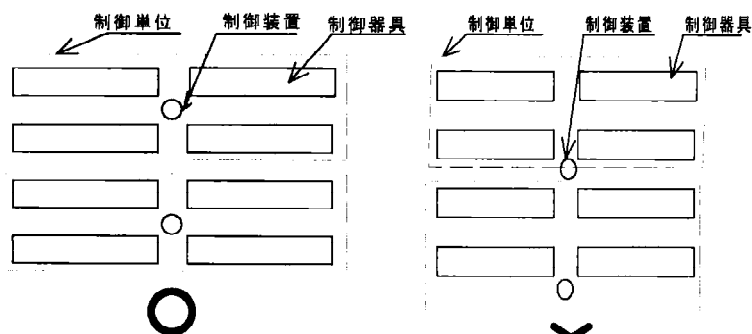
## 4. 配線設計上の留意点

- (1) 時間モードを使用される場合は、制御装置と制御対象照明器具の電源分岐回路を同一にしてください。  
(制御装置に通電されている時間を、ランプの点灯累積時間としてカウントしますので、同一の分岐回路とします。)
- (2) 調光信号線、無電圧 a 接点入力信号線は、小勢力配線のため電源線とは接触しないように配線してください。
- (3) 本装置1台当たりの制御可能台数は、安定器の台数で、最大**50台**です。  
(多灯用器具については、制御可能器具台数が安定器台数と異なりますので、注意してください。)  
※調光信号配線最大延長: 配線種 CPEV 線φ0.9 100m / CPEV 線φ1.2 200m
- (4) 入力信号の無電圧 a 接点は、複数のハイセーバ制御装置での共用はしないでください。  
(一括連動される場合は、リレー回路等を設けてください。)
- (5) 本器に接続する調光形照明器具は、同一の器具タイプにして下さい。異なる器具タイプを接続すると正常な調光動作が出来なる場合があります。

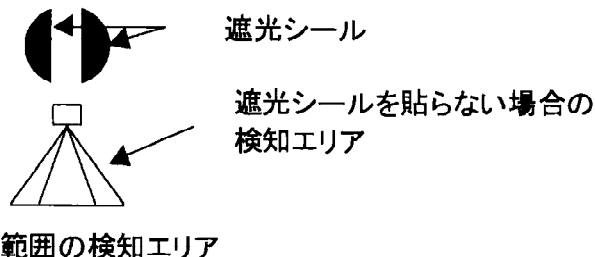
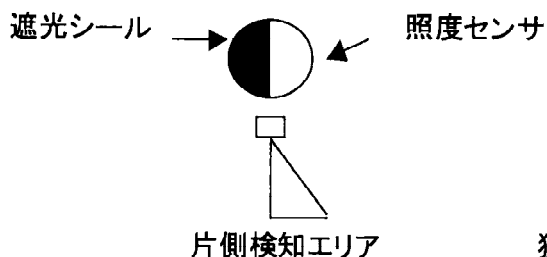
## 5. 器具配置上の留意点

## 照度センサに関して

- (1) 制御範囲の平均照度が検出されるように、制御範囲の中央付近に設置してください。
- (2) 昼光利用のため、本装置を窓際に設置する場合は、目安として、窓からは2m以上離れた所に取り付けてください。
- (3) 検知範囲の制限の方法(必要な場合のみ)  
窓際の取り付けで、太陽の光が多く入る場合、近接の照明器具からの光が多く入りすぎる場合、となりの制御範囲の光が入る場合に、照度センサに付属の遮光シールを貼り、検知範囲を制限してください。



\* 制御装置の取り付け間隔は3m以上とってください。



- (4) 本装置の直下にロッカーなどの背の高い什器が配置された場合、制御したいエリアの明るさを正確に検知出来ず、動作に不具合を生じる場合があります。

|                                           |    |      |        |       |    |       |     |     |
|-------------------------------------------|----|------|--------|-------|----|-------|-----|-----|
| 特記事項                                      |    |      |        |       | 5  |       |     |     |
|                                           |    |      |        |       | 4  |       |     |     |
|                                           |    | 先方記号 | 電 圧(V) | 数 量   | 3  |       |     |     |
| 形式 照 明 制 御 装 置<br>DR20711N(機器仕様図)<br>-4/4 | 栗原 |      |        |       | 2  |       |     |     |
|                                           | 中川 |      |        |       | 1  |       |     |     |
|                                           | 中川 | 器具質量 | 適合ランプ  | W ・ 数 | 品番 | 部 品 名 | 材 質 | 備 考 |